

1 小中一貫教育の推進

牧之原市の「望ましい教育環境のあり方」に関する方針に沿い、令和元・2年度 牧之原市教育委員会の指定を受け、学びと育ちを育む小中連携事業に取り組みました。

小学校の教諭が中学校での授業を参観し、子どもの学びがどのように発展していくのかを知ることができました。反対に、中学校の教諭にとっては、どのように学んできたのかを知り、子どもの学びの経験を生かした指導法を工夫していくことで子どもたちの学びが深まることを学びました。また、小学校時の教諭が、中学校での道徳を行うことで、子どもたちのこころの成長を体感することができました。



つまり、小学校、中学校がそれぞれで教育を推進するよりも、小学校中学校が、より連携、協働し、義務教育9年間で子どもたちを育てていくことが、子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」など、「知・徳・体」の調和のとれた「生きる力」を育み、今日の変化の激しい社会を主体的にたくましく生き抜く人間力が育まれると考え、今後も小中一貫教育を推進します。

2 小中一貫教育推進の柱

- (1) 9年間で育みたい小中共通の教育目標（15歳段階で目指す子ども像）を設定し、学校・家庭・地域が教育目標を共有し、コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育を推進します。
- (2) 9年間の系統性・体系性に配慮がなされる学習指導や行事等の教育課程の編成を追求し、連続性のある教育活動を通して、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育みます。
- (3) 9年間を見通し、一貫した特別支援教育が推進できるよう努めます。
- (4) 小・中学校の教科領域を横断し、起郷家教育（牧之原市版キャリア教育）を通して、ふるさとを愛する心を育み、牧之原の未来を考え、そのよさを発信できる子どもの育成を図ります。

3 小中一貫教育推進の柱をささえる取組

- (1) 小・中学校教員の相互乗り入れ授業の実施
小学校の教員と中学校の教員がお互いに行き来しながら、それぞれの立場を活かしたきめ細かい学習指導を行います。
- (2) 小・中学校教職員の協働による教科等合同研修の実施
市内教員が作成した教科カリキュラム等を活用し、小中学校合同で協働による教科・専門領域の研修を行い、9年間のつながりを活かした授業づくり等に取り組みます。
- (3) 小学校高学年への教科担任制の導入
小学校高学年において、学級担任制を基盤とした教科担任制を導入し、中学校における教科担任制へのなめらかな接続を図ります。
- (4) 小中一貫教育を支えるPTA組織・活動の再構築
小中PTA活動の連携の強化を図るため、小中それぞれのPTA組織・活動を見直します。

4 小中一貫教育推進構想図

